

3 チャレンジスペースの活用

全国都市緑化フェアの活動を経て、年間を通して活用できる公園マネジメント会議の活動場所の模索が始まった。共有の場（チャレンジスペースと命名）を会員間の交流を目的とする「寄り合い場所」とイベント等での活用を目的とする「活動場所」に分類し、お試し企画の実践などにより活用ルールづくりを行いました。

公園の更なる活用に向けて

平成 27 年度第 3 回総会

今後の取り組みのテーマとして、新しい公園の空間活用に向けた議題である「共有の場（“寄り合い場所”と“活動場所”）」の活用について、事務局から提案された候補地をもとにグループ討議を行いました。



3つの候補地の活用について議論

平成 28 年度第 1 回総会

「共有の場（“寄り合い場所”と“活動場所”）」の候補地について現地調査の報告があり、絞り込まれた3つの候補地（NPO 控室、ラボハウス、プール前大屋根広場）について意見交換を行いました。

Topics

平成 28 年 8 月 25 日から 4 日間プール前大屋根広場でお試し企画（4 団体が出展）を実施しました。

持続可能な運営への転換

平成 28 年度第 1 回コア会議

従来のように県が主催する形での春秋まつりではなく、会員がより主体的にイベントを実施するための方法を話し合いました。会員アンケートの結果をもとに、意見交換を行いました。

主な意見（抜粋）

- ・強制ではなく、会員が自発的に参加する仕組みが必要である。
- ・イベント資金を県に頼るのではなく、収益や協賛金を会員が集めて持続可能な体制を作る必要がある。
- ・やれる範囲でやる、という考えをもつ。

「共有の場」から「チャレンジスペース」へ

平成 28 年度第 2 回総会

自主的な活動に期待し、チャレンジスペースの自主的活動に関する8つの基本方針が提案され会議で承認されました。

チャレンジスペースの自主的活動に関する基本方針（一部抜粋）
※記載は 2016 年当時のもの

- ・公園利用者にとっての魅力向上につながる活動を行うこと。
- ・公園マネジメント会議の会員であること。
- ・事前に公園管理事務所において、活動可能か確認すること。
- ・イベント時の事故等については、各自で責任を負うこと。
- ・営利目的の販売は行わない。
- ・飲食の出店は単独では行わない。企画イベントの付随的な出店は認める。
- ・撤去設置については、基本的に活動団体が行うこと。
- ・テント、机、椅子などについては、管理事務所の使用状況に応じて借りることができる。運搬や設置については管理事務所に確認すること。

Topics

公園マネジメント会議の活動の場を拡げ、新たな活動に挑戦していく場として、これまで『共有の場』としてきた場の名称を、『チャレンジスペース』とすることとします！

現地で活用可能性を確認

現地調査会

コア会員を中心に、候補地を調査し活用の可能性を確認しました。



2016

平成 27 年度
第 3 回総会

現地調査会

平成 28 年度
第 1 回総会

平成 28 年度
第 1 回コア会議

平成 28 年度
第 2 回コア会議

平成 28 年度
第 2 回総会

2017

平成 28 年度
第 3 回コア会議

活用の実践に向けて

平成 28 年度第 4 回コア会議

会員よりチャレンジスペースの1つであるプール前大屋根の活用計画が報告されました。前年は工作のみだったが、さらに音楽や物販も計画しているなど活動の幅を広げる提案がされ、実際の活用を通じたルールブラッシュアップについての意見も出されました。

今後の公園マネジメント会議のあり方について

平成 29 年度第 1 回コア会議

今後の春秋まつりのための予算が縮小されることが報告され、公園マネジメント会議として、「春秋まつりをどのように続けていくのか」「今後のイベント等の運営体制のあり方について」が議論されました。

また、両副会長より今後の公園マネジメント会議についてそれぞれ想いが語られました。



早川副会長

『10年が経過する公園マネジメント会議は新しい形を問われている。前向きに、公園全体をマネジメントしながら、来園者が本当に楽しめる公園を目指していきたい。』

篠田副会長

『「万博の理念継承」と「来園者の満足度向上」という大きな2つの目的を、本当に達成できているのか。10年の節目に市民の日線で考え直していくことが重要となる。』



memo

★公園マネジメント会議ではチャレンジスペース企画を平成30年度まで行いました。複数の会員の企画を持ち寄り一つのイベントとすることで、来園者に公園マネジメント会議会員の企画を体験してもらう良い機会ができました。その後は、各々に会員が活動しています。会員からは、チャレンジスペース企画の復活を望む声もあります。

実践を通じた提案

平成 29 年度第 1 回コア会議

プール前大屋根広場の活用を実践した会員より、利用者の変化や活用ルールに関する提案などがありました。

プール・スケート利用者に対するイベント参加者の割合は、平成28年の6.2%から、平成29年には10.3%へ増加し、より多くの来園者に楽しんでいただける取り組みになりました。また、平成28年度第1回総会時に議論された内容についての検証も同時に行われる有意義な実践となりました。



■プール前大屋根広場の利用者数について(夏休み)

年度	開催期間	プール・スケート利用者数	イベント利用者数	1日平均利用者数	実施団体
H28	4日間	5,892人	368人	92人	いだか竹とんぼの会/作楽っ子/なごや竹和会/ネイチャークラブ東海
H29	9日間	17,432人	1,800人	200人	いだか竹とんぼの会/GORIN ENTERTAINMENT/作楽っ子/スポーツサポート協会

チャレンジスペースの今後★

平成 29 年度第 3 回コア会議

今年度のチャレンジスペースの活用に向けた議論や実践などの状況を確認し、新たなエリアを加えた「サトラボエリア」「大観覧車横エリア」「西口エントランスエリア」「グローバルループエリア」の4エリアについて、今後の展開をグループワークで議論しました。

2017

2018

平成 28 年度
第 4 回コア会議

平成 29 年度
第 1 回総会

平成 29 年度
第 1 回コア会議

平成 29 年度
第 2 回コア会議

平成 29 年度
第 2 回総会

平成 29 年度
第 3 回コア会議

4 イベント企画運営実行委員会の立ち上げ

これまで県の予算により開催されてきた「モリコロパーク春秋まつり」について、予算が削減されることとなりました。大きな変化に伴いイベントの今後についての議論から、新しいイベント運営の体制についての議論への発展がありました。

会長の交代

平成 30 年度第 1 回総会

稲村前会長よりご挨拶（抜粋）

11 年務めた会長職は降りますが、今後も会員として関わっていきます。



この会議は多様な会員が相互に関わり続けることが、非常に素晴らしいことだと思います。これからの未来の子供たちにとって、「生き延びる力＝レジリエンス」を野外で学ぶことが出来るこの公園での活動は非常に価値があり、重要だと感じています。これからジブリパークの整備に向けて進んでいきますが、この会と県とスタジオジブリが積極的に協力し、世界に誇れる魅力的な公園となっていくことを期待します。

水津新会長よりご挨拶（抜粋）

これからは公園の使い方が非常に多様化し、重要になっていく時代となります。マネジメント会議は全国で珍しいと思いますが、皆さんいろんな活動をしたり、話し合ったりする場があって、そこで公園のマネジメントを行えるということ自体、非常に斬新な取り組みでもありますし、新しい公園のあり方がここから生まれて行く可能性もあると思って大変楽しみにしています。



Topics

ジブリパークの整備計画の公表後最初の会議となった平成 30 年度第 1 回総会にて、ジブリパーク構想推進室よりジブリパーク基本デザインの概要について会員へ説明がありました。

新しいモリコロパーク春秋まつりのあり方について議論

平成 30 年度第 1 回コア会議

次年度以降は、県の財源がなくなるため、これまで通りのモリコロパーク春秋まつりは開催出来ないことから、マネジメント会議としての方針を、改めて決めるべく意見交換が行われました。

「まつり」を予算ゼロでやっていくことの可能性については「パートナーフェスティバル」などの事例を参考とすることや、民間企業によるイベントとの違いや公園マネジメント会議として取り組むメリットなどについて話し合われました。

議論は「資金の捻出方法」や「継続の可否」、「開催方法」など、具体的な内容に及びました。

●資金の捻出方法

<意見交換>

- ゴミ処理費等、**最低限の固定経費は必ず必要**であり、それは**開催側が賄うべき**。
- 出店料等、**出店する団体から徴収**。ただし、すべて一律ではなく、出店内容、出店場所、出店規模により区分けをする。
- 入場料、参加費等、**来場するお客様より徴収**。
- 人気のある飲食系イベント、大型イベントとの**共同開催による費用の捻出**。
- 企業、NPO、行政、各々の立場で共通していることは、**参加団体として、ボランティアペースで活動することはできるが、金銭的な要求をされると難しい**ということである。
- **駐車場料金を**、一部でも、イベント出店者側に回してもらえると、一層集客にも励みになる。

●継続の可否

<意見交換>

- **予算をゼロにする手段として、「誰が」「何を」するかが大きな問題**であり、その「誰か」に全部の負担が掛かるようであれば、「まつり」の**継続は不可能**ではないか。
- **マネジメント会議の PR のために「まつり」は継続したい**。同時に、費用の確保、経費の削減は必須。
- 経費削減のため、「春」か「秋」、**どちらかに絞る**。

●開催方法

<意見交換>

- **他のイベントとの統合・共催**により、事務局一本化、広報も任せられる等、メリットが大きい。
- 「春」「秋」という、他のイベントが多くある時期を外して、違う時期に「まつり」を開催する。
- 広くたくさんの人を対象とする「まつり」ではなく、**内容の濃い、的を絞った路線**もよいのではないかと。「ハハノワ」「鯨しし」など、イベントの柱を色濃くする方策で成功している団体もある。
- 「まつり」にとって、**一番重要なものは「事務局」**である。
- 各団体が集まって「まつり」を開催することの意義を把握できていないのではないかと。**各団体が方向性や目標を明確にすることで、「まつり」への参加意識が高まり、継続性へ結びつく**のではないかと。
- 「まつり」として、地元の応援も得られるような、**他にはない特色を出す**必要がある。

2019年モリコロパーク春まつりをもって、モリコロパーク開園より続けてきた県主催での春秋まつりの開催は終了することとなりました。

よって、「愛・地球博記念イベント企画運営分科会」は今回で終わり、所属していた会員は「モリコロパーク イベント企画運営実行委員会」へ合流することとなりました。

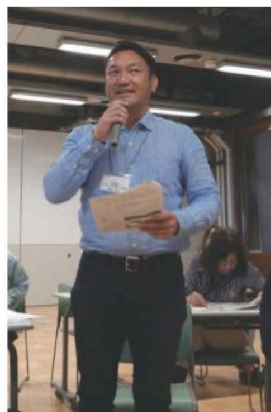
これによって、2019年3月は、県主催・分科会が企画運営する「モリコロパーク春まつり」、実行委員会が主催する「モリコロパーク桜まつり」を、2週連続で開催する盛りだくさんの月となりました。



イベント企画運営実行委員会の発足

平成30年度第2回総会

総会の企画ミーティングで検討した「たたき台」を元に意見交換が行われ、実行委員会の発足が承認されました。



■第2回総会の企画ミーティングで決めたこと【たたき台】(要旨抜粋)

- 1 (仮)モリコロパークイベント企画運営実行委員会の発足を決議し、既存の「愛・地球博記念イベント企画運営分科会」は、実行委員会に合流していただく
- 2 実行委員会は県とは別の会計を持ち、収益事業と非収益事業をバランスさせるなど、自主財源でイベント等を運営する
- 3 イベントのキーコンセプトは「公園全体の魅力の発信」と「回遊性の創出」とし、ダンスや、クラフトなど公園マネジメント会議の多様性を十分に発揮できるものとする。
- 4 「3/23,24の春まつり」と「3月下旬～4月上旬(桜の開花時期)」の2つの期間を対象とし、モリコロパーク全域を対象にイベント企画・運営する。

【意見交換の抜粋】

公園マネジメント会議が、イベントを活発にできていない中、お金がなくなるのをチャンスとして捉えたい。一旦白紙に戻して細かい話は実行委員会で決めていきたい。すべて(仮)なので、皆さんでつくりあげていけるとよいと考えている。

会員自らが実行委員会を組織して、考え、意思決定をして進める。今日の総会では、実行委員会のような新しい仕組みが必要だということを決議したい。

2018

平成30年度
第2回コア会議

平成30年度
第3回コア会議

平成30年度
第2回総会

5

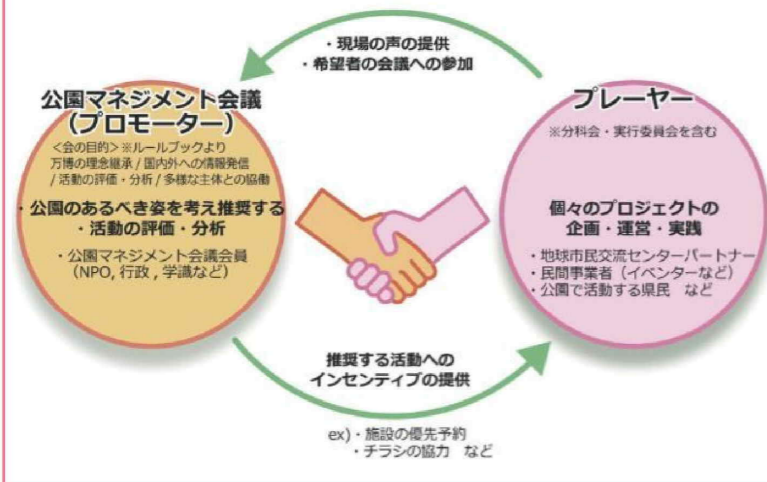
会議のあり方の転換へ

公園マネジメント会議の役割

平成 30 年度第 4 回コア会議

公園マネジメント会議の役割について、準備会で議論した方針を元に意見交換を行いました。

「プロモーター」という言葉の定義等の課題は残りますが、「マネジメント会議の立ち位置は何か」ということを整理し、県と指定管理者と会員の関係性をもう一度再定義する必要があるという意見や、こういったメンバーでマネジメント会議を構成すべきか、というところを議論することの必要性が話し合われました。



2019

平成 30 年度
第 4 回コア会議

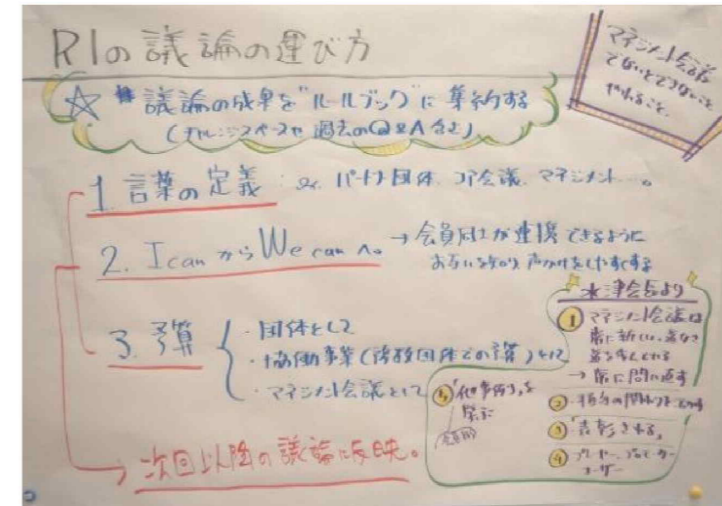
公園マネジメント会議は、会長の交代や実行委員会の発足などがあり、また、モリコロパークの中にジブリパークが計画されるなど転換期を迎えています。さらには新型コロナウイルスの流行などの大きな社会情勢の変化を受け、公園マネジメント会議のあり方を再考する議論が進められています。

会議のあり方を再考することを共有

令和元年度第 1 回総会

会議のあり方の再考にあたり、下記のような意見が出されました。

- 過去の取り組みの成果を「ルールブック」に蓄積する。(チャレンジスペースや過去の議論を Q&A で整理する。)
- 基本的用語 (パートナー、コア会議、マネジメント等) を新規会員の方でもわかるように定義する。
- 「I can から We can へ」。会員全体で何かをやろうとすると、とてつもないエネルギーがかかるが、会員全体でやった実績として緑化フェアがある。
- 会員同士が連携しやすいようにもう少し小さいコラボで実現できないか方法を考える。



会議の意義を再確認

令和元年度第 1 回コア会議

公園マネジメント会議の発足の経緯や意義、公園利用者の定義等について共有し、議論しました。

～公園マネジメント会議の意義の再確認～

愛・地球博の成果である「市民参加・市民協働」から生まれた NPO などの活動団体、民間企業、大学、県や公園管理事務所が、1つの机に集まり、会員自らが「考え・話し合い・実践する」ことで、行政が行う公園の管理運営を超えて、「公園利用者の満足度等の向上」を目指すもの。

～利用者目線で公園の管理運営～

- ・公園利用者には大きく下記の3種類がいて、これらの利用者は、公園に期待することが異なっている。
 - ①公園に遊びに来る人
 - ②公園で活動する人
 - ③公園を使ってイベントなどを企画する人
- ・多様な立場の会員からなる公園マネジメント会議だからこそ、多様な利用者の目線で、課題解決に向けての提案、実行することで、満足度向上を図ることができる。

令和元年度
第 1 回コア会議

集中的な議論による制度の見直し

令和元年度第2回コア会議

会員から挙げられた課題に対し集中的に議論を進めることで解決を目指すこととし、初めに「分科会制度」の見直しについて議論しました。

企画ミーティングで検討した解決策を元に意見交換を行い、分科会廃止に関するルールをルールブックに記載することとなりました。

分科会が抱える問題点と解決方法（案）について、分科会の現在の活動状況ごとに整理しました。

	分科会の状況	問題点	解決方針（案）
A	設立時に設定した目的を終えた分科会	分科会が活動を終了時の廃止方法がない	廃止のルールを作る
B	新たな分科会に活動を引き継いだ分科会	分科会が活動を終了時の廃止方法がない	廃止のルールを作る
C	活動が休止している分科会	(1) 代表者が活動時間が確保できず休止している	廃止する
		(2) 分科会とは別の方法で活動を行っている	廃止する
D	活動している分科会	各分科会の活動の有無や内容が分からない	活動報告を徹底する
		複数の団体に協力を求めたいがうまくいかない	活動内容をPRする

～企画ミーティングで作成した具体的な対応方法（案）～

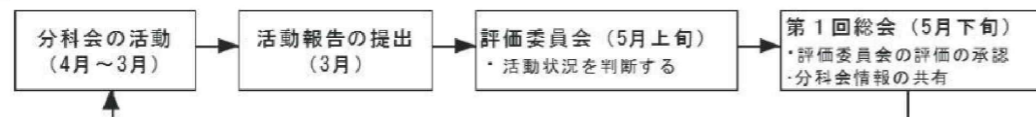
A・B・Cの状態の分科会に対して

⇒ 運営ルールブックに廃止ルールを追加して、分科会を廃止する。

Dの状態の分科会に対して ⇒ 以下の【取組1】、【取組2】を徹底することで情報の共有を図る

【取組1】既存ルールを徹底する

年間フロー



【取組2】活動内容をPRする

① PR内容… 活動している分科会、活動内容、活動に伴う参加・協力の募集を、会員全体で共有する。

② PR方法 (案の1) 総会で活動報告として情報提供する
(案の2) 地球市民交流センターにマネジメント会員の掲示板を設けて掲示する
(案の3) マネジメント会議のHPに掲載する。

社会課題への対応を議論

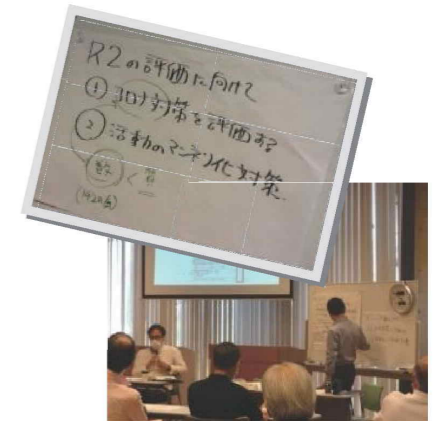
令和2年度第1回総会

新型コロナウイルスの影響下での活動評価項目のあり方について議論しました。

●前年度のアンケートから、「公園の利用者を増やす」の評価が下がった理由として、コロナの他にマンネリ化という話が挙げられている。次のアンケートの中で、それをどのようにリカバーしようとしているかが見えない。提案として、令和2年度の評価に向けては、コロナについてはコロナ対策、マンネリ化については何らかの指標を入れる等、提起された問題に対する対策とその結果（評価）を図るといった部分も含めるべきではないか。

●コロナの影響もある中で、来園者数など、単純に「増やす」ということではなく、目標値の設定については、精査が必要である。

●with コロナの時代にふさわしいモリコロパークの活用は、量よりも質の向上を目指すことを意識した今年の取り組みができればよい。会員の知恵を共有することができればよい。★



Topics

イベント企画運営実行委員会が主催する2回目のイベントとして、秋まつりを開催しました。

これまでの地球市民交流センターから大芝生広場の三日月休憩所やモリコロエレベーター付近も会場とする新しい取り組みでした。



memo

★ 公園マネジメント会議会員のコロナへの対応策については、令和2年度末の会員アンケートにて集計し、令和3年度総会にて報告することとしました。

2019

令和元年度
第2回コア会議

令和元年度
第3回コア会議

2020

令和2年度
第1回総会

令和2年度
第2回総会

公園診断の実施

<Aグループ>

・北口や西口の入口あたりを徹底的に点検する。案内やガイドが悪い等いろいろありそうなので、分析が大きなテーマである。

<Bグループ>

・先ほどの発表では、バス停やベンチのあり方みたいなことだったが、さらに議論が進んで、バスに留まらない移動手段の観点でモリコロパークを点検していきたいという話になった。

<Cグループ>

・アンケート内容こそが非常に分析の手がかりになるので、丁寧に掘り下げるところから作業を進めていく。

<Dグループ>

・中間報告ではWi-Fiスポットの話だったが、Bグループの刺激を受け、我々もまずは、バスで全体を巡った方がよいのではないかという話になった。薄く広く全体を見ていきたい。

<Eグループ>

・「子どもひろば」の改善方法こそが一番のトピックスではないか。実際に「こどもひろば」の現地調査を行う。

令和2年度コア会議



■公園診断表 主な意見

公園の魅力（桜、イベント、昆虫）の周知不足

動画などによる効果的な発信

SNSの更新頻度が少ない

マネジメント会員の活動情報をあげられるツールがほしい

イベント案内の情報発信が少ない

園内MAPに統一性がなく見づらい

公園の課題として「イベントの案内がわかりにくい」「公園の魅力が伝わりにくい」等の情報発信に関する意見が多くあげられました。

この課題解決のために会員が自発的に取り組める項目に投票を実施した結果「SNS」と「MAP」の2つのカテゴリーに分かれグループ討議を行いました。

この「SNS班」と「MAP班」を令和3年度コア会議の中で活動するグループとして位置づけ、課題解決のための実践活動を行うこととしました。

SNS班・MAP班の誕生

令和3年度第1回総会～第2回総会

コア会議で「SNS班」「MAP班」に分かれて、話し合いと実践を進めました。

■SNS班

「SNS」というツールを活用した愛・地球博記念公園の魅力・情報発信や、公園マネジメント会議内の情報共有を行うことを目的に、活動を行いました。公式ハッシュタグの積極的な運用 / 愛・地球博記念公園の公式SNSから最新情報を収集 / 会員同士でSNSグループをつくり情報共有力を高める

■MAP班

園内の案内地図に対する課題へのアプローチや、園内地図を活用した愛・地球博記念公園の魅力・情報発信を目的に活動を行いました。既存のモバイルラリー看板の活用 / 季節ごとの定期的な情報を発信

Topics

「公園マネジメント会議」の雰囲気を知ってもらうためYoutube上に動画を公開しました。



SNS班・MAP班の実践活動

令和4年度第1回総会～第4回コア会議

■SNS班

会員が公園に関する身近な情報やおすすめ情報を投稿するFacebook「モリコロパーク特派員」を運用開始しました。



■MAP班

新設する看板の運用ルールや活用方法について話し合い、みどころや季節の情報を書き込める看板を作成しました。



2020

令和2年度
第1回コア会議

2021

令和2年度
第4回コア会議
令和3年度
第1回総会

2022

令和3年度
第2回総会
令和4年度
第1回総会

2023

令和4年度11月
ジブリパークオープン
令和4年度
第4回コア会議

分科会について

分科会とは、公園マネジメント会議にて承認を得た活動の実行組織です。会議にて申請した会員が活動の目的や内容を説明し、それに賛同した会員が、分科会に所属します。
あゆみの中では、下記28の多彩な分科会が誕生し、活動しました。

No.	分科会名	No.	分科会名
1	池における水質・底質調査分科会	15	緊急時に備える実習分科会
2	「モリコロパーク秋まつり」企画・運営分科会	16	クリスマスフェスタ（仮称）企画運営分科会
3	愛・地球博理念検証分科会	17	「樹木でよみがえれ被災地の緑」分科会
4	花と緑とさくらを愛する分科会	18	愛・地球博記念イベント企画・運営分科会
5	地球市民交流センターオープニング分科会	19	モリコロパークのクリスマス会分科会
6	F・COMMUNITY サミット IN 愛知 分科会	20	自然の保全と活用を実践する分科会
7	「モリコロパーク春まつり」企画・運営分科会	21	森の音楽会
8	モリコロパークの土壌環境調査分科会	22	2016 夏祭り分科会
9	万博閉幕5周年フェア分科会	23	2016 記念館特別展示検討分科会
10	人と感性を育む総合芸術分科会	24	子どもの遊び場を検討する分科会
11	愛・地球博森のオーケストラ分科会	25	万博サンバフェスティバル分科会
12	「モリコロパーク春まつり」企画・運営分科会	26	料理や工作が楽しくなる分科会
13	「モリコロパーク秋まつり」企画・運営分科会	27	イベント・運営・交流分科会
14	モリコロパーク営業ツール分科会	28	さくらと緑を愛する分科会

令和元年度には、活動を終了した分科会がそのまま存続していることが公園マネジメント会議にて問題提起され、大規模な見直しを実施しました。一度すべての分科会を解散した上で、今後の活動を希望する分科会は再度、令和2年度第1回総会にて承認を受けました。
令和5年3月現在、活動している分科会は、下記7つです。

愛・地球博理念検証分科会
人と感性を育む総合芸術分科会
樹木でよみがえれ被災地の緑分科会
子どもの遊び場を検討する分科会
シャララ万博カーニバル分科会
さくらと緑を愛する分科会
モリコロパーク特産品開発分科会